



2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月15日

上場会社名 株式会社プラスアルファ・コンサルティング 上場取引所 東
 コード番号 4071 URL <https://www.pa-consul.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三室 克哉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート部門担当 (氏名) 野口 祥吾 (TEL) 03(6432)0427
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	5,197	—	1,710	—	1,711	—	1,163	—
2022年9月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 1,163百万円 (—%) 2022年9月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	28.73	27.74
2022年9月期第2四半期	—	—

(注) 当社は、2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期第2四半期の数値および対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	9,947	7,720	77.6
2022年9月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 7,716百万円 2022年9月期 一百万円

(注) 当社は、2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,600	34.0	3,400	27.6	3,350	25.4	2,600	44.7	64.69

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社グローアップ、除外 1社 （社名）

(2) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年9月期2Q	41,452,920株	2022年9月期	40,190,000株
2023年9月期2Q	93株	2022年9月期	93株
2023年9月期2Q	40,513,498株	2022年9月期2Q	40,122,126株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

あらゆる情報がデジタル化されビッグデータ化する中で、当社グループは「見える化プラットフォーム企業」のビジョンのもと、先進的なテクノロジー活用によるデータを可視化する技術を武器に、ビッグデータ活用による企業の業務効率化や意思決定を支援するサービスを展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、企業のデジタル化シフトや働き方の見直しに伴う業務の自動化・効率化などへの取り組みが続いており、それらを支援するソフトウェアについては高い需要が維持されております。特に当社が手掛けるSaaS型クラウドサービスは、インシャルコストを抑えて短期での導入が可能であることや、システム更新などの運用負荷を軽減できることから導入へのハードルが低く、企業規模や業種を問わず投資意欲が高く、市場成長をけん引しております。

当社グループでは、2008年5月にスタートした見える化エンジンにより高収益を確立しながら、2011年7月に立ち上げたカスタマーリングスでは安定成長を継続し、2016年9月に参入したタレントパレットは高成長を続けております。いずれも継続収益が大部分を占めるSaaS型サービスであり、それぞれの事業による収益が上乘せされる形で成長を継続しております。全ての事業は黒字化しており、高収益の安定事業、安定成長事業、高成長事業の組み合わせにより、全社ベースで高い成長率と利益率を同時に実現しております。

また2022年10月より株式会社グローアップが子会社となり、タレントパレットとの連携を図りながら、グループの成長に寄与しております。

新規顧客を獲得するための活動としては、マス広告やWeb広告等によるオンラインマーケティング、展示会やWebセミナー等へのイベントへの参加により、当社グループのサービスに関心をもつ顧客を集客し、導入を検討する企業にはサービス説明やデモを実施しながら受注を獲得してまいりました。またインサイドセールスやアウトバウンドなどの手法も活用し、潜在的な顧客に対して積極的に提案を行うことで、新たな顧客層の開拓を推進しております。

足元では新型コロナウイルス感染対策に伴う行動制限が緩和される中で、リアル会場での展示会やイベントなどの機会が増加してきており、参加者にデモや分析手法の紹介を行う機会を活用しながら顧客の導入意欲を高めております。

以上の取り組みの結果、当第2四半期累計期間における売上高は5,197,677千円となり、前年の高成長を継続しております。また将来の大きな市場獲得を見据えて人員採用やマーケティング投資などの積極的な成長投資を継続した結果、営業利益は1,710,435千円、経常利益は1,711,777千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,163,994千円となっております。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

<見える化エンジン事業>

見える化エンジン事業は、コールセンターやマーケティング部門に集まる顧客の声に加え、近年拡大してきたソーシャルメディア上での口コミを分析できるツールを提供しております。

当事業では「顧客体験フィードバック」のコンセプトのもと、企業が顧客に提供したい顧客体験と、顧客の感じ方のギャップを分析する仕組みを提供しており、企業の商品・サービスの改善に対するソリューションとして事業展開を図っております。

主力顧客の製造業の受注は引き続き堅調であるほか、金融業などのサービス業等でも顧客の声をマーケティングに活かす取り組みは着実に浸透しつつあること、コロナ禍で抑制されていた観光・レジャー業等の活動が回復しつつあることなどにより、当サービスへの引き合いは堅調に推移しております。またツール単体としての提供だけでなく、分析ノウハウや分析結果の活用方法をコンサルティングサービスとして提供しつつ、顧客内の幅広い部門での活用を促す取り組みを強化した結果、受注案件の大型化が進んでいるほか、既存顧客についても活用シーンの拡大とともに顧客単価は上昇傾向にあります。

足元では、ソーシャルメディアでの消費者ニーズの把握やコールセンターやコンタクトセンター等での顧客の声の分析、社内のナレッジ蓄積と業務効率化等を目的としたサービス導入が好調に推移しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間におけるセグメント売上高は902,871千円、セグメント利益は507,694千円となりました。

<カスタマーリングス事業>

カスタマーリングス事業は、主にEC事業者や通信販売事業者向けに、顧客の属性、購入履歴、メール配信への反応等の情報に基づき、最適なキャンペーンを実施できる統合マーケティング・ツールを提供しております。

当事業では「実感型デジタルマーケティング」のコンセプトのもと、データの効率的な活用にとどまらず、オンライン施策が顧客行動に与える影響を分析・見える化することで、次の施策決定を支援し、また分析した結果を直接マーケティング施策に活用できるソリューションとして事業展開を図っております。

電子商取引市場の拡大により、顧客とのデジタル接点から収集した情報をマーケティング施策に活かす取り組みが広がってきている一方で、デジタル・マーケティング分野は成長市場であることから新規参入も多く、競争環境は厳しくなっております。そのような環境の中で、当社グループは、多様な条件設定によりリアルタイムに有望顧客を抽出・可視化することで顧客に合わせたきめ細かなマーケティング・シナリオ構築と最適アクション実施を実現できるツールとして差別化を図っております。

当サービスへの引き合いは堅調に推移しており、顧客数の増加に加え、既存顧客の利用度拡大に伴うプランアップや従量課金の増加により顧客単価は上昇傾向にあり、収益拡大に寄与しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間におけるセグメント売上高は810,902千円、セグメント利益は262,906千円となりました。

<タレントパレット事業>

タレントパレット事業は、企業内に散在している社員スキル、適性検査結果、職務経歴、人事評価、従業員アンケート、採用情報などの人材情報を集約して分析・見える化できるプラットフォームを提供しております。働き方改革や労働人口減を背景とした人材活用プロセス（採用、教育、配置、評価）の質的向上や効率化を目指した人材管理のソフトウェア市場は急拡大しております。当社では、顧客基盤の拡大に向け、先行的に積極的な人員採用やマーケティング投資を実施しており、導入社数は急速に増加しております。

当事業では、人材情報をデータで見える化し、分析的視点での人事戦略を実現する「科学的人事」のコンセプトのもと、継続的にサービスの機能強化を図っているほか、導入企業へのコンサルティングを通じて蓄積された分析ノウハウや活用方法などをサービス強化に結び付けております。足元では「ジョブ型雇用機能」「健康経営機能」「人的資本管理機能」などのサービス強化を図るほか、展示会への出展やセミナー開催等、リアルな場を活用したマーケティング施策により、引き合いが増加しております。新規に導入する顧客については、従業員数が多い大手企業が増えており、オプション機能の導入やプランアップによるアップセルが進んでいることから、全体の顧客単価が上昇傾向にあり、収益拡大に寄与しております。

また、株式会社グローアップが提供するサービス「キミスカ」では、企業と学生を結びつけるプラットフォームを提供しております。学生は無料でデータベースにプロフィールを登録し、利用企業は登録された学生プロフィールを閲覧しながら求人ニーズにマッチする候補者に直接アプローチする「逆求人」型のサービスを展開しております。利用企業にとっては、就職ナビ等を経由して企業に応募する「エントリー型」の応募では出会えない学生へのアプローチが可能となるほか、学生にとっては、自分の強みやスキル、価値観、経験などを評価してくれる企業からのオファーを得られるサービスとなっております。タレントパレットの導入企業がキミスカを通じて効率的に新卒学生とのマッチングが図れるための連携機能を強化しており、グループ連携を図りながら利用企業の開拓を推進しております。少子化に伴う労働力不足で採用の難易度が高まる環境下で、本サービスに対する引き合いは堅調に推移しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間におけるセグメント売上高は3,483,903千円、セグメント利益は1,397,146千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は7,469,239千円となりました。

主な内訳は、現金及び預金が6,124,581千円、受取手形及び売掛金が1,066,876千円であります。

また、固定資産は2,478,531千円となりました。主な内訳は、有形固定資産が168,856千円、M&Aにより発生したのれん1,232,346千円を含めた無形固定資産が1,624,166千円、投資その他の資産が685,508千円であります。

以上の結果、資産合計は9,947,770千円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は2,096,112千円となりました。

主な内訳は、未払法人税等が579,814千円、賞与引当金が183,192千円、買掛金が136,118千円であります。

また、固定負債は繰延税金負債であり、130,695千円となりました。

以上の結果、負債合計は2,226,807千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は7,720,962千円となりました。

主な内訳は、資本金が312,258千円、資本準備金が302,258千円、利益剰余金が7,101,921千円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、6,124,581千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,368,419千円となりました。これは主に、法人税等の支払額554,906千円による資金の減少があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上1,675,114千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は626,239千円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出612,109千円、有形固定資産の取得による支出14,150千円による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は96,218千円となりました。これは主に新株予約権の行使による株式の発行による収入442,022千円あったものの、長期借入金の返済による支出178,085千円、配当金の支払額360,155千円による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の連結業績予想に関しましては、2022年11月14日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	6,124,581
受取手形及び売掛金	1,066,876
仕掛品	1,968
貯蔵品	3,253
その他	272,926
貸倒引当金	△367
流動資産合計	7,469,239
固定資産	
有形固定資産	168,856
無形固定資産	
のれん	1,232,346
その他	391,820
無形固定資産合計	1,624,166
投資その他の資産	
その他	687,977
貸倒引当金	△2,469
投資その他の資産合計	685,508
固定資産合計	2,478,531
資産合計	9,947,770

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(2023年3月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	136,118
未払法人税等	579,814
賞与引当金	183,192
その他	1,196,986
流動負債合計	2,096,112
固定負債	
繰延税金負債	130,695
固定負債合計	130,695
負債合計	2,226,807
純資産の部	
株主資本	
資本金	312,258
資本剰余金	302,258
利益剰余金	7,101,921
自己株式	△226
株主資本合計	7,716,212
新株予約権	4,750
純資産合計	7,720,962
負債純資産合計	9,947,770

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	5,197,677
売上原価	1,362,199
売上総利益	3,835,477
販売費及び一般管理費	2,125,042
営業利益	1,710,435
営業外収益	
受取利息	24
有価証券利息	1,570
その他	247
営業外収益合計	1,841
営業外費用	
支払利息	38
支払手数料	376
その他	84
営業外費用合計	499
経常利益	1,711,777
特別損失	
段階取得に係る差損	36,663
特別損失合計	36,663
税金等調整前四半期純利益	1,675,114
法人税、住民税及び事業税	546,198
法人税等調整額	△35,079
法人税等合計	511,119
四半期純利益	1,163,994
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,163,994

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	1,163,994
四半期包括利益	1,163,994
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,163,994
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,675,114
減価償却費	89,342
のれん償却額	64,860
段階取得に係る差損益(△は益)	36,663
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△130
賞与引当金の増減額(△は減少)	33,501
受取利息及び受取配当金	△1,594
支払利息	38
固定資産除却損	84
売上債権の増減額(△は増加)	△13,004
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,880
仕入債務の増減額(△は減少)	31,578
前払費用の増減額(△は増加)	△92,469
未払金の増減額(△は減少)	39,262
未払費用の増減額(△は減少)	9,156
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,249
契約負債の増減額(△は減少)	3,545
その他	44,452
小計	1,921,769
利息及び配当金の受取額	1,594
利息の支払額	△38
法人税等の支払額	△554,906
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,368,419
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△14,150
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△612,109
敷金及び保証金の回収による収入	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△626,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△178,085
新株予約権の行使による株式の発行による収入	442,022
配当金の支払額	△360,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96,218
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	645,962
現金及び現金同等物の期首残高	5,478,619
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,124,581

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第2四半期累計期間において、新株予約権の行使により、資本金が224,037千円、資本準備金が224,037千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が312,258千円、資本剰余金が302,258千円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	見える化 エンジン事業	カスタマー リングス事業	タレント パレット事業	計		
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	41,136	22,265	506,269	569,670	—	569,670
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	861,735	788,637	2,977,633	4,628,006	—	4,628,006
顧客との契約から生じ る収益	902,871	810,902	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	902,871	810,902	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	902,871	810,902	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
セグメント利益	507,694	262,906	1,397,146	2,167,747	△457,312	1,710,435

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「タレントパレット事業」セグメントにおいて、株式会社グローアップの株式を取得し連結子会社としたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において、1,297,206千円であります。